

老後に足りない金額は毎年変わる?

	実収入額 (円)	実支出額 (円)	差額 (月間、円)		差額 (30年間、 万円)	貯蓄 現在高 (万円)	
			消費支出	非消費支出			
2015年	213,379	275,706	243,864	31,842	-62,327	-2,244	2,427
2016年	212,835	267,546	237,691	29,855	-54,711	-1,970	2,443
2017年	209,198	263,717	235,477	28,240	-54,519	-1,963	2,484
2018年	222,834	264,707	235,615	29,092	-41,873	-1,507	2,344
2019年	237,659	270,929	239,947	30,982	-33,270	-1,198	2,317
2020年	257,763	259,304	227,347	31,957	-1,541	-55	2,335
2021年	237,988	260,094	228,305	31,789	-22,106	-796	2,488
2022年	246,034	271,890	239,441	32,449	-25,856	-931	2,519

※夫65歳以上、妻60歳以上の夫婦のみの無職世帯

出所:総務省「家計調査」(家計収支編、貯蓄・負債編)より著者作成

図表6-1-1 高齢夫婦無職世帯の実収入・実支出・貯蓄現在高

$$(246,034 - 271,890) \times 12 \times 30 = -25,856 \times 12 \times 30 = -9,308,160 \text{円}$$

$$25,190,000 - 9,308,160 = 15,881,840 \text{円 (95歳時点=65+30)}$$

$$15,020,000 - 9,308,160 = 5,711,840 \text{円 (95歳時点=65+30)}$$

図2 高齢無職世帯の実収入及び実支出の推移(二人以上の世帯)

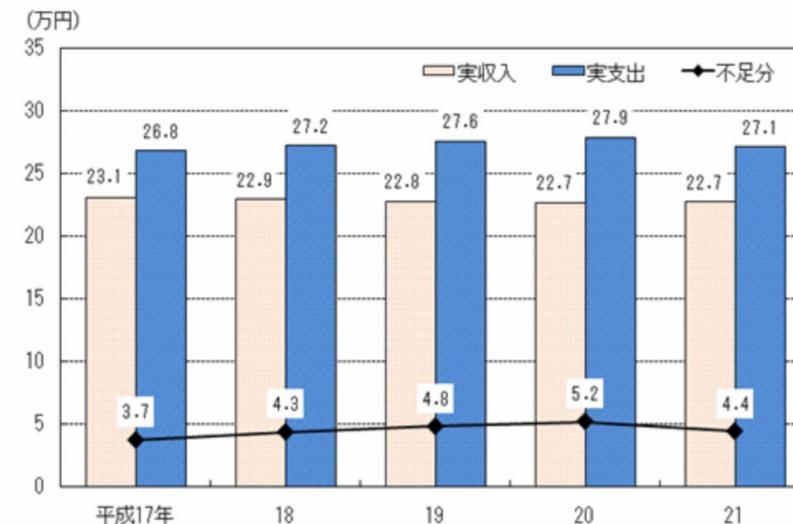
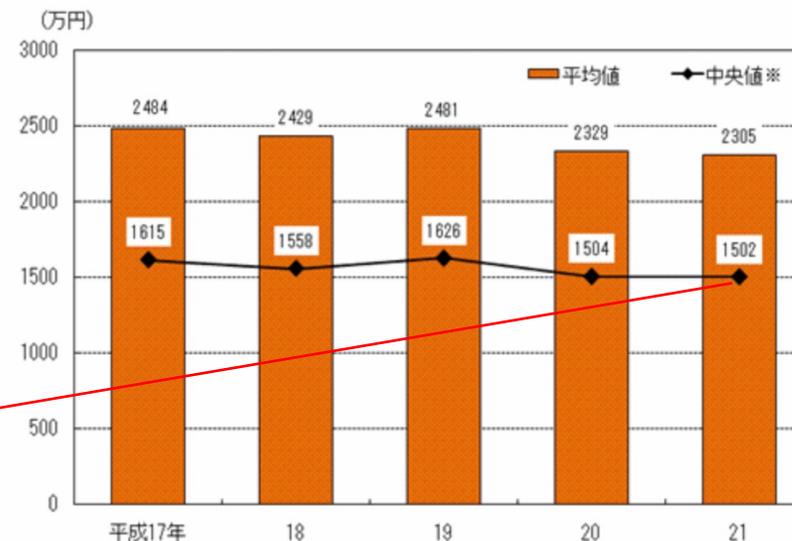


図4 「世帯主が高齢者の世帯」の貯蓄現在高の推移(二人以上の世帯)

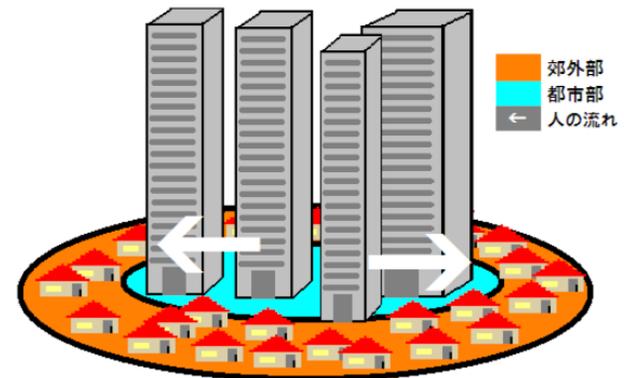
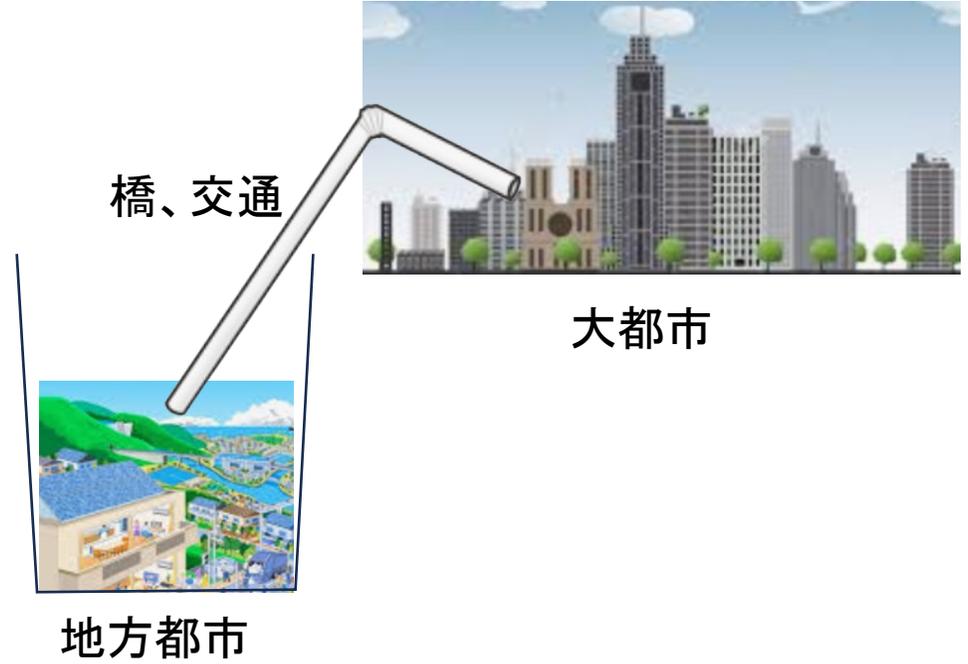
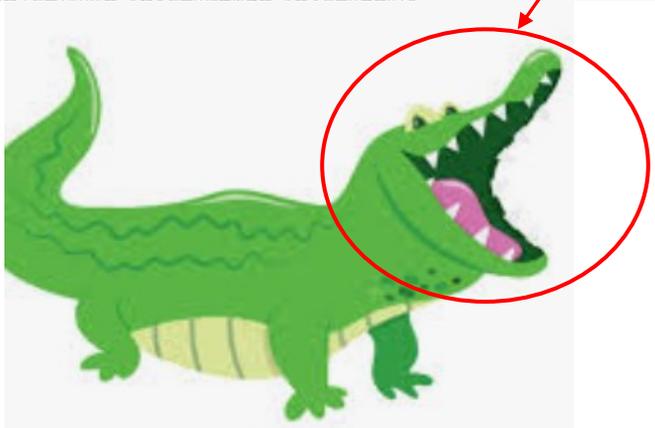
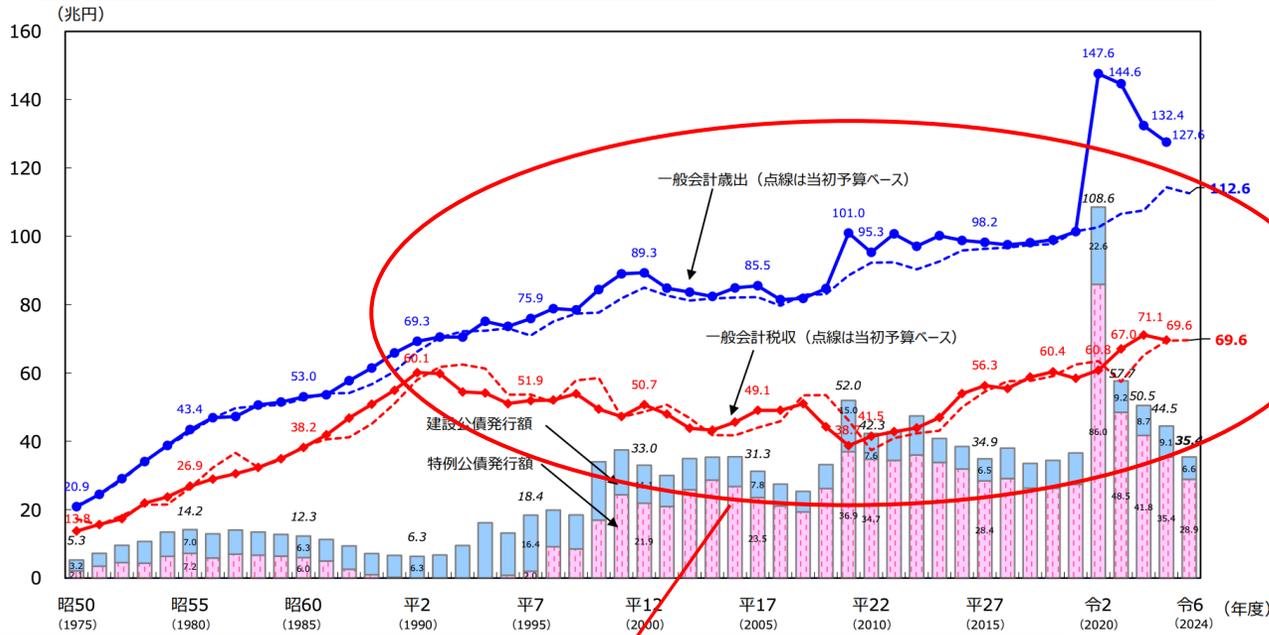


※ 中央値は、貯蓄現在高階級別の世帯分布から推計したものであり、貯蓄現在高が「0」の世帯も含めたものである。

# ストローク現象

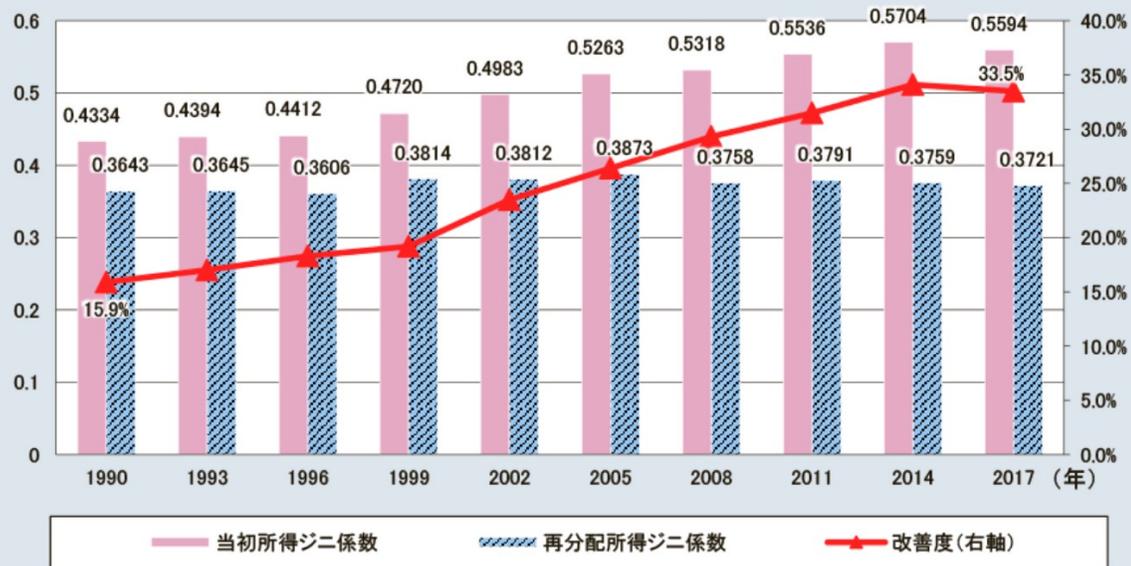
## 一般会計収税、歳出総額及び公債発行額の推移

○ 我が国財政は歳出が税収を上回る状況が続いています。その差の多くは借金（建設公債・特例公債）によって賄われています。



コロナ禍： ← → ドーナツ現象  
 最近： → ← 都心回帰

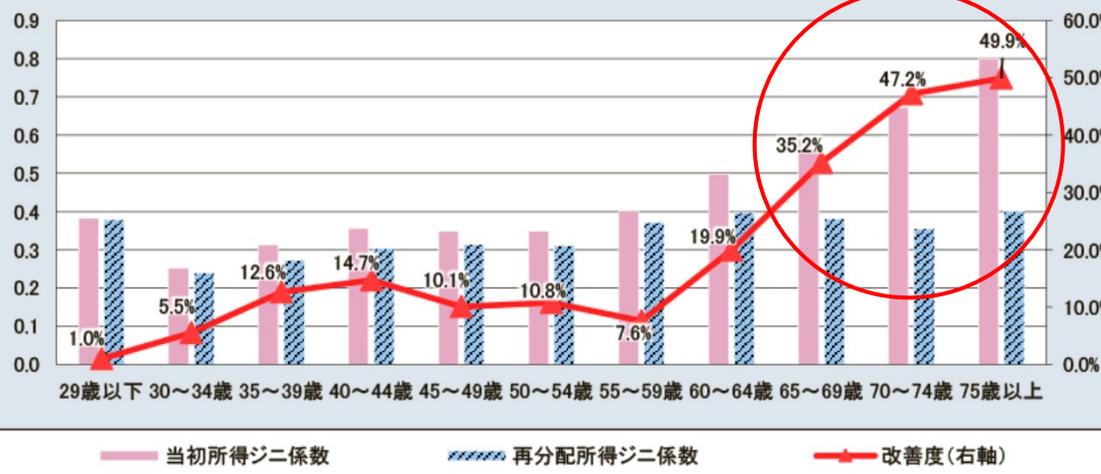
# ジニ係数の改善の推移



資料：厚生労働省政策統括官付政策立案・評価担当参事官室「所得再分配調査」

# ジニ係数(年齢別)

高齢者の改善大きい

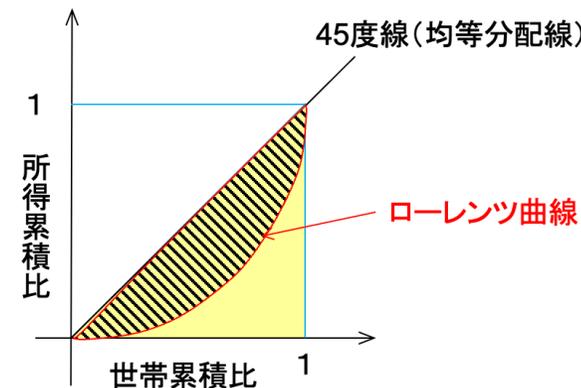


資料：厚生労働省政策統括官付政策立案・評価担当参事官室「平成29年所得再分配調査」

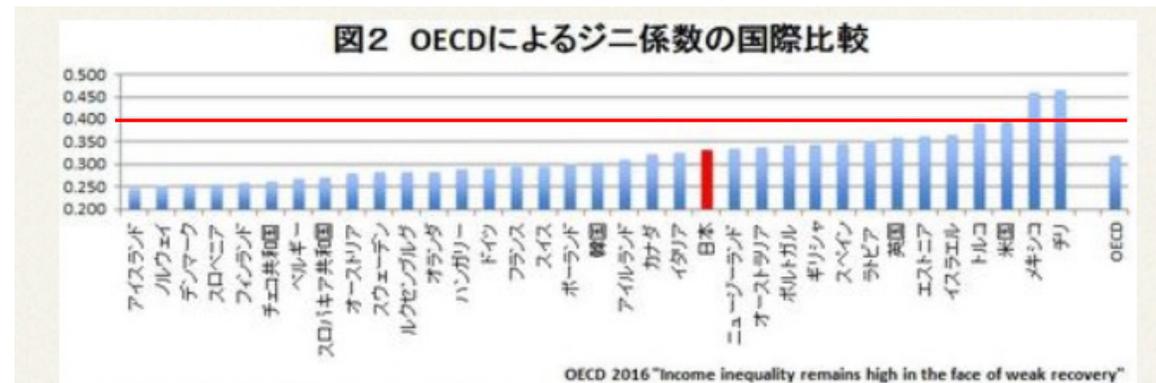
ジニ係数は、社会における所得の不平等さを測る指標

$$\text{ジニ係数} = \frac{\text{ローレンツ曲線の面積}}{\text{45度線の面積}} = \frac{\text{ローレンツ曲線の面積}}{\frac{1}{2}} \times 2$$

- ジニ係数0: ローレンツ曲線が45度線に一致、つまり所得格差なし
- ジニ係数1: ローレンツ曲線が横軸に一致、つまり一人が所得を独占した状態  
1に近いほど格差が大きい



社会騒乱多発の警戒ラインは、0.4



OECD 2016 "Income inequality remains high in the face of weak recovery"